

課題対応取組み報告書

【共通】

名称	西成区東部地域包括支援センター			
提出日	6	年	6	月 11 日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	☒ 地域や専門職とのつながり等	☐ 社会資源の創設（居場所づくり等）
	☐ 認知症高齢者等の支援	☐ 自立支援・介護予防・健康づくり等
	☐ その他（ ）	
活動テーマ	気になる高齢者や世帯の支援（地域ぐるみでの助け合い）と楽しみや期待の持てる取り組み	
地域ケア会議から 見えてきた課題	・担当圏域は、身寄りのない一人暮らしの高齢者の相談が多く、認知症の相談の割合も高くなっている。 また、複合的な課題を抱えた世帯の相談も増え、高齢者支援だけでは解決できない状況であった。 ・家族や飲み屋のママによる金銭搾取やライフラインが停止、家賃の滞納など生活、経済面における問題が顕在化している。 ・昨年同様、権利擁護の意識が低く複雑化してしまっていることもあり、成年後見人制度の活用の周知活動が必須と考えている。	
対象	地域住民（高齢者に限らず、介護の担い手なども対象とする）専門職機関（オレンジチーム、生活支援コーディネーター、見守り相談室、区保健師、区精神保健福祉士、医介連携、障がい者基幹相談センター、ランチ他）	
地域特性	・地域との関係が稀薄、キーパーソンが居ない介入が困難な方も多い。 ・一人暮らしの高齢者が多く、生活保護受給率も高い。 ・地域の関係者の高齢化が進む中、世代間交流ができる地域もあり、「ポッチャ」交流も盛んとなっている。	
活動目標	・地域と専門職とのつながりを深めることで「早期発見、早期介入」の実現及び互いに「顔が見える関係づくり」の構築を目指す。	
活動内容 (具体的取組み)	・地域住民（高齢者に限らず、介護の担い手も含む）認知症予防の視点を含む、成年後見制度の周知活動 ・高齢者が消費被害に合わないために「出張フリースクール」の地域別開催 ・圏域を超えた、「東部包括フリースクール」の定期継続開催 ・ポッチャ大会（春、秋の年2回）の開催 ・「集いの場」として、喫茶「よってこ」の定期継続開催 ・担当圏域の民生委員定例会議やネットワーク委員会に高齢者虐待や認知症の方の「早期発見、早期介入」についての働きかけ	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	・「高齢者が消費者被害に遭わないために」の「出張フリースクール」が2回出来た ・「車いす体験会・街歩き編」を開催し、世代間交流にもつながり、地域を改めて知る機会になった ・「東部包括フリースクール」の利用者が増え、毎回25名以上の方が参加され活気あるものが開催出来た ・「喫茶よってこ」も高齢者に限らず色んな世代が来て下さるようになり、毎回30名近い方に参加していただいている	
今後の課題	・地域との専門職をつなぎ、困難なケースにも気づきの目を増やし「早期発見、早期介入」を心がけ、重篤化を防ぐ ・認知症になっても、安心して暮らせる地域を目指すためにも、権利擁護の視点の取り組みの周知活動の展開を図る	
※以下は、区運営協議会事務局にて記入		
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和6年7月22日（月）	
専門性等の該当 (※該当個数は問わない)	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性・拡張性 ☒ 専門性 ☒ 独自性	
評価できる項目（特性） についてのコメント * 今後の取組み継続に向けて、区 地域包括支援センター運営協議会 からの意見等を記載。	「東部包括フリースクール」の利用者が増えており、「車いす体験会」での世代間交流や「喫茶よってこ」でも様々な世代が参加されている。地域ぐるみでの助け合いが出来るよう、今後も高齢者が楽しみを持てる取り組みを引き続き期待している。	